

## 日本海呼称問題（仏国立図書館所蔵の地図に関する調査）

平成16年3月11日

外務省は、昨年10月から本年1月にかけて、仏国立図書館が所蔵する地図のうち16世紀から19世紀の間に発行された地図において、日本海海域の名称がどのように表記されているかについて調査を行った。その結果、日本海海域に名称が記載されている地図407枚のうち、61.2%に当たる249枚が日本海と表記しており、朝鮮海と表記しているものは14.7%に当たる60枚に過ぎないことが明らかとなった。また、今回調査した地図のうち19世紀前半に発行された地図の90.0%に当たる99枚において、19世紀後半に発行された地図の100%に当たる105枚全てにおいて日本海と表記されていることが明らかとなり、「『日本海』という呼称は19世紀初頭からヨーロッパの地図において定着してきたものである」という我が国の主張が改めて確認された。

### 1. 調査目的

(1) 我が国は、「日本海」という呼称が正当なものであることを一貫して主張しており、その主要な論拠として以下の3点を挙げている。

(イ)「日本海」という呼称が、現在、国際的に確立していること。

(ロ)歴史的に見ても、「日本海」という名称は19世紀初頭からヨーロッパの地図において定着してきたものであること。

(ハ)地理的命名法からも、「日本海」という名称は妥当であること。

(2)このうち、上記(ロ)の歴史的観点については、国土地理院の研究者2名がヨーロッパで発行された200枚以上の古地図を調査した結果、18世紀末頃まで、この海域には「中国海」、「東洋海」、「朝鮮海」、「日本海」など多様な名称が使われていたが、19世紀初頭から、ヨーロッパの地図を中心に、「日本海」の名称が他を圧倒して使われるようになった事実が確認されている(注1)。また、外務省が行った、大英図書館及びケンブリッジ大学所蔵古地図調査においても同様の事実が確認されている(注2)。ヨーロッパで発行された地図において、19世紀初頭から「日本海」という名称が使われ始めたのは、18世紀末から19世紀初頭にかけて、仏、英、露等の探検家が日本海周辺を探検し、日本海が日本列島によって太平洋から切り離されているという地理的形狀が明らかとなったためであると考えられており、この考え方は多くの研究者によって支持されている。

注1：外務省作成の「日本海」パンフレット参照

注2：外務省ホームページ「大英図書館及びケンブリッジ大学所蔵の地図に関する調査」参照

(3)これに対し、韓国側は「『日本海』の名称が支配的になったのは20世紀前半の日本の帝国主義、植民地主義の結果である」(注1)及び「17世紀から19世紀まで、西洋人は、この海域について、Sea of Korea, Sea of Josen, Eastern Sea, Oriental Sea, Sea

of China, Sea of Japan などの様々な名称を使用した。この時期に用いられた名称は様々であったが、韓国に言及した名称を使用した地図が最も多い」と主張し(注2)、その根拠として独自に行った仏国立図書館が所蔵する古地図の調査を挙げている。同調査によれば、16世紀から19世紀の間に発行された古地図515枚を調査した結果、115枚に日本海周辺海域の名称の表記があり、このうち62%に当たる71枚が、「朝鮮海(Mer de Coree)」又は「東海(Mer Orientale)」と表記しており、「日本海(Mer du Japon)」と表記した古地図は19%に当たる22枚であることとなっていた(注3)。しかしながら、この調査結果には、以下のような問題がある。

(イ)韓国側調査では、「Mer du Orientale」を「東海」と見なしているが、「Oriental」は「Occidental」の反意語であって、単なる方位である「East」と同列に扱うことはできない。したがって、「Mer du Orientale」は「東洋海」と分類すべきである。

(ロ)韓国側は、16世紀から19世紀にかけて発行された地図全体をみて、「日本海」よりも「朝鮮海」又は「東海」を記載した地図の方が多かったとしている。しかし、日本海海域の名称について考える際、各年代ごとにどのような名称が使用されていたのかを調査し、現在国際的に広く使用されている「日本海」という名称がどのようにして定着してきたかを検証すべきである。

(ハ)韓国側の調査では各地図に関するデータ(発行年代、地図の名称、海の名称の表記、書架番号、発行国等)が明らかとなっていないため、同調査結果が正確なものであるか検証できない。

(4)外務省は、「『日本海』という名称は19世紀初頭からヨーロッパの地図において定着してきたものである」という主張の正当性を検証するとともに、韓国側の調査結果を確認するため、仏国立図書館が所蔵する地図について、日本海海域の名称がどのように表記されているか調査を行った。

注1: Lee Ki-suk, Kim Shin, Soh Jung-chul, “East Sea in World Maps”, The Society for East Sea, (Seoul:2002) pp95-112

注2: The Ministry of Foreign Affairs and Trade, The Ministry of Maritime Affairs and Fisheries, The Korean Overseas Information Service of the Government Information Agency, “EAST SEA The Name EAST SEA Used for Two Millennia”, (Republic of Korea:April 2003)pp4-11

注3: 朝鮮日報 2003年3月11日、中央日報 2003年3月11日

## 2. 調査概要及び結果

### (1) 調査概要

外務省は、仏国立図書館が所蔵する地図について昨年10月から本年1月にかけて、以下のような調査を行った。

(イ) 本件調査は、在仏日本大使館を通じて実施した。同大使館は、仏国立図書館に調査員を派遣し、所蔵品目録等を活用して、16世紀から19世紀の間に発行された地図で、日本海周辺が掲載されている可能性のあるものを検索し、リストを作成した。なお、日本で発行されたもの及び明らかに地図でないことを確認されたもの(絵はがきなど)は、調査対象から除外した(注1)。

(ロ) 上記リストの地図を実際に関覧し、日本海の記載状況を確認した。

(ハ) 日本海海域の海の名称について、発行年代別の統計表を作成した。

(ニ) 閲覧した地図の複写を入手した。

## (2) 調査結果

調査結果は、以下のとおりである。

(イ) 仏国立図書館が所蔵する地図のうち、上記(1)(イ)の条件に該当するものが1,495枚あることが確認された。このうち407枚において日本海海域に海の名称の記載が確認された(注2)。

(ロ) この407枚のうち、発行国の言語で「日本海」(Sea of Japan、Mer du Japon等)と記載されたものが249枚、「朝鮮海」(Sea of Korea、Gulf of Corea、Mer de Coree等)と記載されたものが60枚、「東洋海」(Mer Orientale、Oriental Sea等)と記載されたものが32枚、「日本海・朝鮮海」と記載されたものが3枚、「日本海・東洋海」と記載されたものが2枚、「東洋海・朝鮮海」と記載されたものが6枚であった。また、上記いずれの分類にも当てはまらないものが56枚であった。なお、「東海」(East Sea)と記載された地図は存在しなかった(注3)。(リスト別添)

(ハ) 19世紀前半に発行された地図では、全体の90.0%に当たる99枚が、19世紀後半に発行された地図では、100%に当たる105枚が、「日本海」と表記していた。

(ニ) この407枚の発行国は、仏262枚、蘭41枚、独34枚、英17枚、米9枚、伊及びロシア8枚、中国3枚、オーストリア及び西2枚、アルメニア、インド、カタールニア、カナダ及びポルトガル各1枚、仏・蘭5枚、仏・独及び独・蘭各1枚並びに不明9枚であった。

(ホ) 調査結果を地図の発行年代別に示せば、表1及びグラフ1のとおりである(注8)。なお、仏国立図書館について行った日本側調査と韓国側調査の相違を図示すればグラフ2のとおりである。

注1：仏国立図書館の所蔵地図調査に当たっては、まず「日本」「アジア」「朝鮮」をキーワードにインターネットカタログによる検索を実施した。これに加え、インターネットカタログに登録されていない地図もあることから、書架目録を検索し、日本海海域を含むと思われる地図について調査を行った。

注2：1.(1)(イ)の条件に該当する地図は、501枚あったが、重複する地図等が94枚あったのでこれを除外した結果407枚となった。

注3：1.(3)(イ)で述べたように、「Mer du Orientale」は「東洋海」と分類した。

### 3. 結論

今回の日本側調査の結論は、以下のとおりである。

- (1) 18世紀までのヨーロッパの地図では、日本海海域の名称として、「日本海」、「朝鮮海」、「東洋海」、「中国海」等様々な名称が使用されていた。
- (2) 19世紀以降に主にヨーロッパで発行された地図においては、「日本海」という名称が圧倒的に多く使用されていることが確認され、「『日本海』という名称は、我が国が鎖国下にあつて国際的影響力を行使できなかった19世紀からヨーロッパにおいて定着してきたものである」とする日本側の主張が改めて確認された。
- (3) なお、仏国立図書館所蔵地図に関する韓国側の調査は、同図書館が所蔵する地図の一部についてのみ行った不十分なものであり、かつ、これを根拠とした「『日本海』の名称が支配的になったのは20世紀前半の日本の帝国主義、植民地主義の結果である」、「17世紀から19世紀まで、西洋人は、この海域について、様々な名称を使用した」、韓国に言及した名称を使用した地図が最も多い」という韓国側の主張には根拠がないことが明らかとなった。
- (4) また、韓国側パンフレットには、大英図書館、仏国立図書館、米議会図書館などが所蔵する地図を調査した結果が示されている(注1)。同パンフレットによれば、調査した地図は全体で763枚であつて、日本に関連する呼称が使用されているものは123枚であるとされている。今回、外務省が行った調査によれば、仏国立図書館だけで19世紀までに発行された地図が407枚あり、そのうち日本海が単独で表記されている地図が249枚存在することが明らかとなった。このことから、韓国側の調査は、いずれの場合も、対象となった図書館が所蔵する地図の一部についてのみ行った、不十分なものであつて、このような調査結果をもととする韓国側の主張には根拠がないと言わざるを得ない。

注1：The Ministry of Foreign Affairs and Trade, The Ministry of Maritime Affairs and Fisheries, The Korean Overseas Information Service of the Government Information Agency, “EAST SEA The Name EAST SEA Used for Two Millennia”, (Republic of Korea: April 2003)p5

(表1) 仏国立図書館所蔵地図調査結果

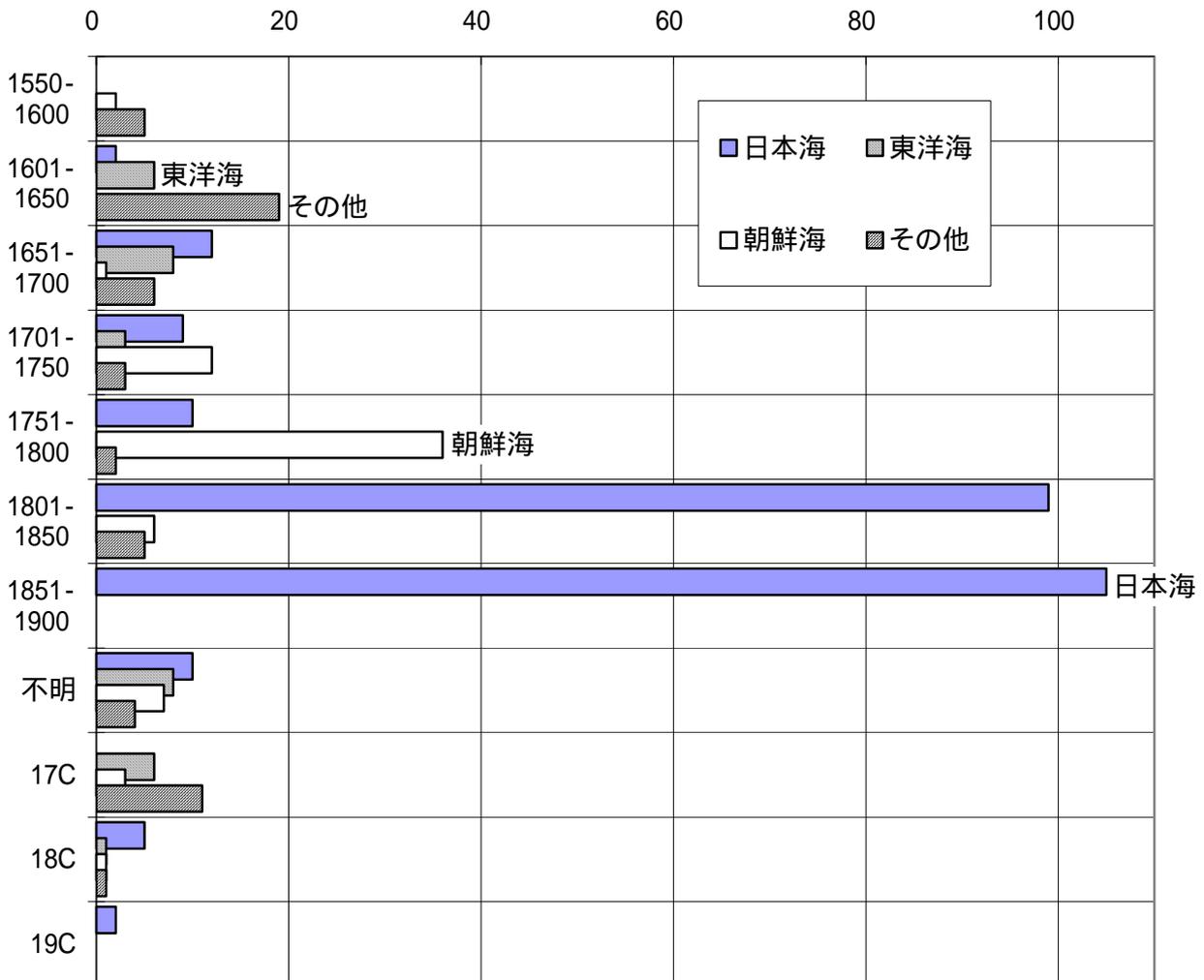
	1550-1600	1601-1650	1651-1700	1701-1750	1751-1800	1801-1850	1851-1900	不明	17C	18C	19C	合計	割合
日本海	0	2	12	9	10	99	105	10	0	5	2	254	62.0%
東洋海	0	6	8	3	0	0	0	8	6	1	0	32	7.8%
朝鮮海	2	0	1	12	36	6	0	7	3	1	0	68	16.6%
その他	5	19	6	3	2	5	0	4	11	1	0	56	13.7%
合計	7	27	27	27	48	110	105	29	20	8	2	410	

(グラフ1) 仏国立図書館所蔵地図調査結果

年代別統計

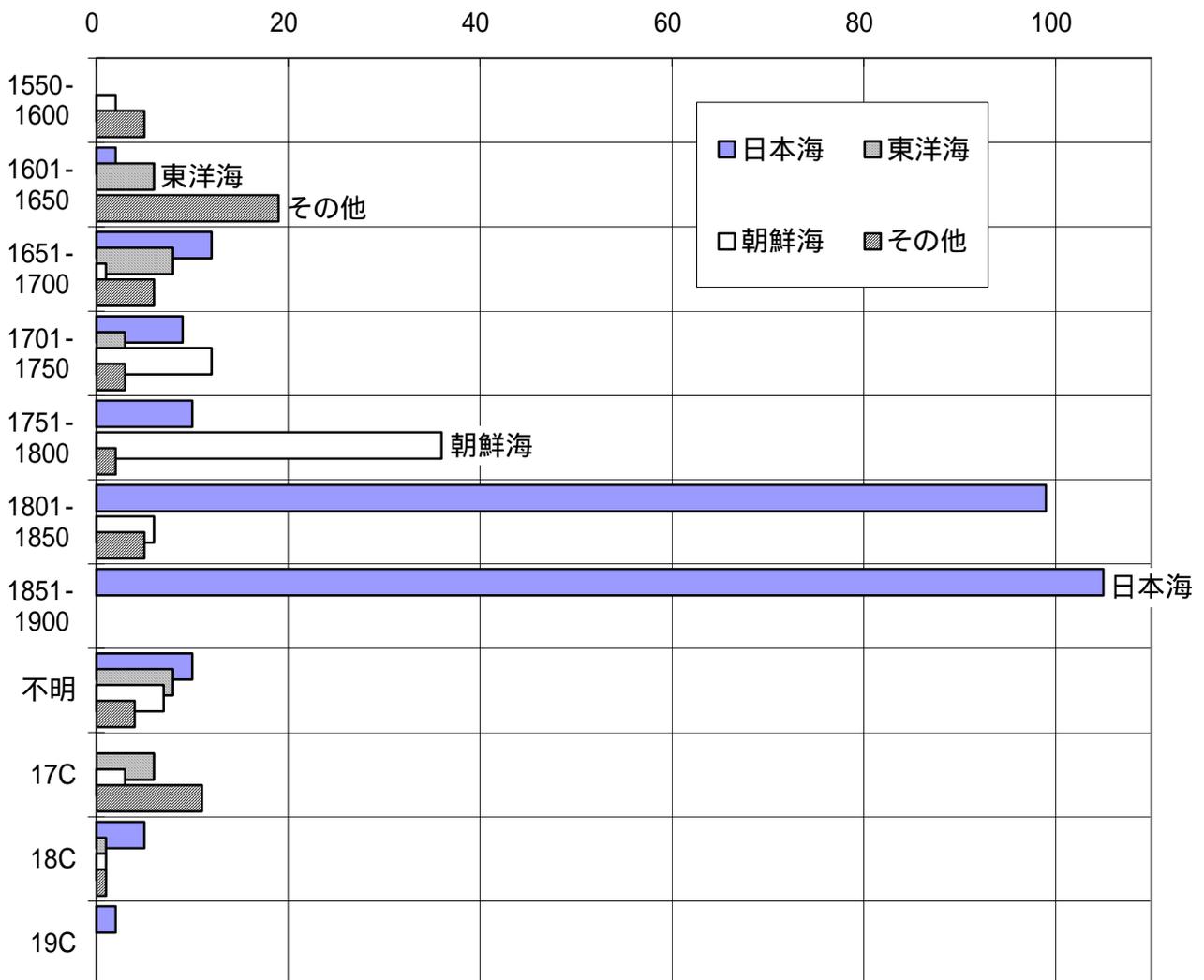
仏国立図書館

	1550-1600	1601-1650	1651-1700	1701-1750	1751-1800	1801-1850	1851-1900	不明	17C	18C	19C	合計	割合
日本海	0	2	12	9	10	99	105	10	0	5	2	254	62.0%
東洋海	0	6	8	3	0	0	0	8	6	1	0	32	7.8%
朝鮮海	2	0	1	12	36	6	0	7	3	1	0	68	16.6%
その他	5	19	6	3	2	5	0	4	11	1	0	56	13.7%
合計	7	27	27	27	48	110	105	29	20	8	2	410	



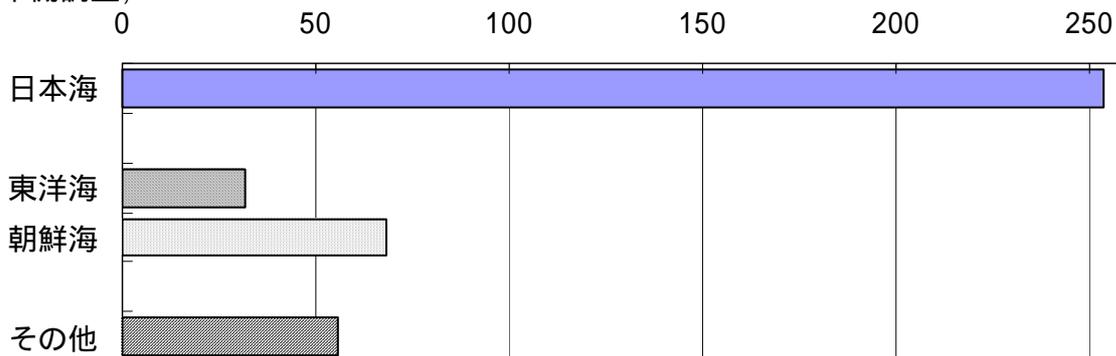
年代別統計  
 仏国立図書館

	1550-1600	1601-1650	1651-1700	1701-1750	1751-1800	1801-1850	1851-1900	不明	17C	18C	19C	合計	割合
日本海	0	2	12	9	10	99	105	10	0	5	2	254	62.0%
東洋海	0	6	8	3	0	0	0	8	6	1	0	32	7.8%
朝鮮海	2	0	1	12	36	6	0	7	3	1	0	68	16.6%
その他	5	19	6	3	2	5	0	4	11	1	0	56	13.7%
合計	7	27	27	27	48	110	105	29	20	8	2	410	

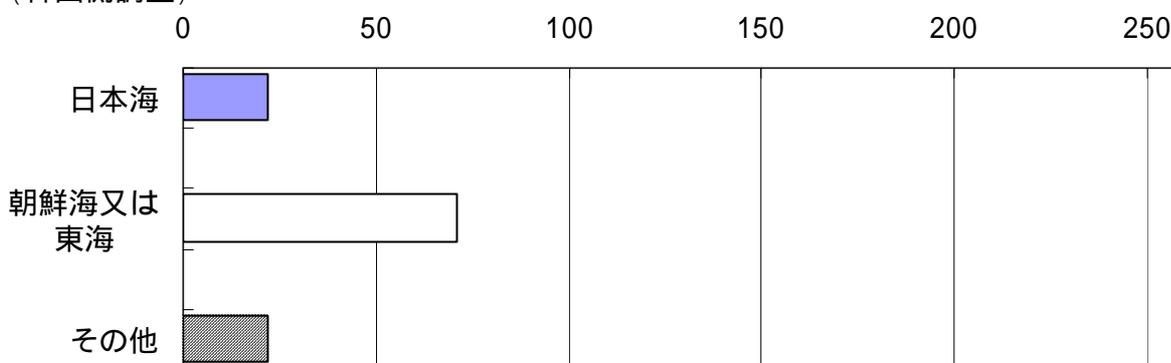


( グラフ 2 ) 仏国立図書館所蔵地図調査結果 ( 日本側調査と韓国側調査との比較 )

( 日本側調査 )



( 韓国側調査 )



注：仏国立図書館所蔵地図のうち、発行時期が完全に特定できないものが4枚あった。これらは便宜上、1650年代となっているものを17世紀前半に、1737-1772年となっているもの及び18世紀後半となっているものを18世紀後半に、1880年代となっているものを19世紀後半として計算した。

なお、「日本海・東洋海」と表記された地図2枚はこれを日本海に含めることとし、「東洋海・朝鮮海」と表記された地図5枚はこれを朝鮮海に含めることとした。また、「日本海・朝鮮海」と表記された地図3枚については、日本海と朝鮮海それぞれに3枚ずつ含めることとした。その結果、表及びグラフでは、日本海と表記された地図の枚数が254枚(249+2+3)、朝鮮海と表記された地図の枚数が68枚(60+5+3)、全体の地図の枚数が410枚(407+3)となっている。